

道徳通信

～ 松葉づえ ～

愛西市立八開中学校
令和4年6月8日
1年生の授業

「友情」とはどういうものだろうについて考えました！

転校生の大野君は、骨折の治療中で松葉づえを突いています。クラスみんなは、「友達だもんね。」と、移動に手を貸したり、ノートを見せたりと、大野君の手助けをします。しかし、大野君が中間テストで最高点を取ったり、将棋で強さを発揮したりすると、みんなは手を貸さなくなりました。ある日、走ってきた女子が大野君の松葉づえにつまずいて転び、クラスは、大野君を責める雰囲気になってしまいます。授業では、みんなが大野君に手をかさなくなった理由や僕はその後どうしていくとよいかについて探り、テーマについて考えました。

●● ●●さん

友情とは、助け合ったり、切磋琢磨したりしていけるような関係だと思った。

●● ●●さん

安田紫音さんの「怪我しているから助けるのではなくて、友達だから助ける」という意見が参考になった。

●● ●●さん

友達を下に見ず、お互い対等な存在としてこれからの生活を生きていきたい。そのためにはまず、友達を大切にしていきたい。

●● ●●さん

友情を深めるには「相手と同じ目線に立つ」ということが大事だと思った。人をみただけで上下を決めない。そして、絶対にしない。

●● ●●さん

もし、自分がこういう場面になったとしたら相手を「松葉杖をついているから」という理由で助けるのではなく、「友達だから」という思いを大切にしたい。友達と協力したり、助け合ったりすることをこれからもより一層大切にしていきたい。また、「相手と同じ立場になって物事を考える」ということを大切にしたい。

●● ●●さん

今日の授業を通して、不自由な人を助ける時に勝負をしている場合ではない。という大切なことが分かった。自分のプライドより相手を助けることがとても大切だと思った。

●● ●●さん

ただ人と仲良くやっているだけじゃ友情とは言えないと思う。だって相手を認め、下に見ることもなく協力しあえる関係のことを本当の友情だと思う。だから、これからは本当の友情を大切にしていきたい。

●● ●●さん

自分より下だと思っていたのが、自分より上になってしまったということがあったら私も嫌だけど、上回りたいと思うから自分も成長できるのでいいと思った。

●● ●●さん

他の人に負けてその人を虐めたりすることなく、その人を褒めたり、失敗してしまった人を慰めたりしながらよい友達関係を保ちたい。

●● ●●さん

「友達だから助ける」と思っていたら、本当は松葉杖をついていて転校してきたばかりだから、助けていたことに気づいた「僕」は、伊藤くんがいなかったら大野くんのことをいじめていそうで怖かった。私は友達の方が優れているところもあるし、自分の方が優れているところもあるから、いつも友達を平等、または友達の方が上に見ているからこれからも続けていきたい。



道徳通信

～ 松葉づえ ～

愛西市立八開中学校
令和4年5月12日
2年生の授業

「友情」とはどういうものだろう

転校生の大野君は、骨折の治療中で松葉づえをついています。クラスのみんなは、「友達だもんね」と、移動に手をかしたり、ノートを見せたりと、大野君の手助けをします。しかし、大野君が中間テストで最高点を取ったり、将棋で強さを発揮したりすると、みんなは手を貸さなくなりました。ある日、走ってきた女子が大野君の松葉づえにつまずいて転び、クラスは大野君を責める雰囲気になってしまいます。親切にしていたクラスメートたちが、しだいに態度を変える姿を描いた物語から、「友達」や「友情」とはどういうものかについて考えました。

●● ●●くん

友情とは友達を思う思いやりだと知った。

●● ●●さん

このクラスはどうだろう。私は、自分より何かできる人がいたとしても自分がその人に負けないように頑張れば良いと思う。そして自分が一番をとったら良いと思った。自分も頑張れるし、いいライバル関係を持つことができラッキーだと思う。

●● ●●くん

自分よりできるからって怒らない。本当の友達なら何をされたら嫌なのかわかっているはずだからそれをしない。

●● ●●さん

初めて会った人が自分より実力が上でも嫌ったりせず、自分の上の目標としてみれば良いのではないかなと思った。友達は自分にとって大切な存在で友達との接し方を考えようと思った。

●● ●●さん

友情とは持ちつ持たれつのサッパリした関係だと思った。相手を対等に見て、自分より優れていたとしても、笑顔で褒められるようになることができるものだと思う。

●● ●●さん

大野くんを責めているときに言い返せる伊藤君の勇気がすごいと思いました。自分は、悪いと思っていても言い返せる勇気がないからです。どれだけ大野君が優秀でも結果で気持ちが変わるのは、よくないと思いました。

●● ●●さん

どんな時でも助け合うのが友情と言って、そこでやっと友達・親友になれると思う。助けてくれなかったら、友情とは言えない。お互いがリラックスできるのが友情だと思う。

●● ●●さん

優しくしすぎると疲れてしまって良い友情関係を築けないと思った。友情の考え方は人それぞれ違うからそれを相手に押し付けるのはいけないと思った。

●● ●●さん

最初はたくさん話しかけてくれたり、誘ってくれたりしてくれた人も、飽きたりするとすぐ離れていってしまう。そうになると、話しかけてもらった方は急な変化でびっくりする。友人が自分よりできていたり成功したときは、素直に喜んで褒めてあげるのが本当の友情だと思う。



道徳通信

～「松葉づえ」より～

愛西市立八開中学校
令和4年5月19日
3年生の授業

📌「友情」とはどういうものだろう

転校生の大野君は、骨折の治療中で松葉づえをついています。クラスみんなは、「友達だもんね」と、移動に手を貸したり、ノートを見せたりと、大野君の手助けをします。しかし大野君が中間テストで最高点を取ったり、将棋で強さを発揮したりすると、みんなは手を貸さなくなりました。ある日、走ってきた女子が大野君の松葉づえにつまずいて転び、クラスは大野君を責める雰囲気になってしまいます。親切にしていたクラスメートたちが、しだいに態度を変える姿を描いた物語から、「友達」や「友情」とはどういうものかについて考えました。

●● ●●さん

この話の人たちはみな自分勝手だと思った。すぐ相手のことを嫌だと思うなら無理に友達とか言わない方がよいしその時の感情で友達とか友情を強制するのはよくないと思った。

●● ●●さん

友情とは、お互いのテリトリーにどれだけ踏み込むか感覚でわかる関係だと思う。

●● ●●さん

友情とは互いの気持ちを分かりあって助け合える関係だと思う。ただ手を貸すだけだと逆に迷惑になってしまうかもしれないのでしっかり相手の気持ちを理解することが大切だと思う。

●● ●●さん

大野君が優秀だからって何も手をかさなくなるのは、友情ではないと思った。みんなが手をかさなくなることは大野君にとって、それはとても悲しい状況になる。ちゃんとした学校生活を送れなくなるのは差別だと思う。大野君は優秀だけど足は怪我をしているからサポートしてあげることはとても大切なことだと思う。

●● ●●さん

怪我をしていて大変だからという理由も大事だけど、あくまでも対等な立場で接することができるのが大事だと思う。それに加えて、優劣も全部認めて協力し合える相手が本当の友達なのかなと思う。

●● ●●さん

友達などといった先入観に惑わされずにまずは一人の人として向き合っていくのが大切なんだと思った。友達になるのは別に初日じゃなくてもいいし、じっくりその人のことを理解してから、友達になればいいと思う。

●● ●●さん

自分達が間違っていたっていう意見は別にそんなことないんじゃないかなーって思った。自分達が最初の方しか手を貸さなかったけど、そのおかげで大野が学校に慣れて手を貸さなくても生活できるようになったかもしれない。

●● ●●さん

今回は大野君はみんなより優秀だから手助けをしなかった。けど、もしそれが優秀でなかった場合は、多分そのまま手をかしていたと思う。大野君への態度を変えたのは、本当に大野君を助けようとしていたのではなく、少しやらされているような手助けだったからかなと思った

